

令和2年度 健康保険組合決算見込集計結果(概要)

令和3年10月19日
健康保険組合連合会

1. 令和2年度決算見込みは、高齢者拠出金が増加(3.2%)し、新型コロナウイルス感染拡大の影響から保険料収入が減少(▲0.7%)したが、感染拡大下における受診控え等により保険給付費が大きく減少(▲5.1%)し、2,952億円の黒字。
2. 業態別にみると、特定の業種(「繊維製品製造業」、「運輸業」、「宿泊業・飲食サービス業」、「生活関連サービス・娯楽業」)では報酬の悪化(※標準賞与▲13.0~▲43.9%)が著しい。
3. 義務的経費(法定給付費+拠出金)に占める拠出金割合は48.1%と、対前年2.1%増。

	令和2年度決算見込み	前年度増減(伸び率)
保険料収入	8兆1,841億円	▲596億円(▲0.7%)
【再掲】特例猶予等未収額	273億円	-
保険給付費	3兆9,065億円	▲2,113億円(▲5.1%)
高齢者拠出金	3兆5,457億円	1,113億円(3.2%)
経常収支差	2,952億円	454億円

※本報告は、令和3年3月末現在の全組合1,388組合の数値を集計したものである。

【結果のポイント】

- ① 保険料収入のうち、新型コロナウイルス特例猶予等による未収額は96組合で総額273億円。
- ② 赤字組合は全体の3分の1にあたる458組合(33.0%)で、令和元年度と同程度。
- ③ 赤字組合のうち、30組合で特例猶予等による未収があり、総額は206億円で、未収額全体の約8割(75.5%)を占める。
- ④ 新型コロナウイルス感染拡大下における受診控え等もあり、保険給付費は前年度比2,113億円減(▲5.1%)の3兆9,065億円。
- ⑤ 高齢者拠出金は前年度比1,113億円(3.2%)増の3兆5,457億円、うち前期高齢者納付金は伸びが著しく、前年度比840億円(5.8%)増の1兆5,390億円。
- ⑥ 新型コロナウイルス感染拡大の影響等により、保健事業費は前年度比181億円減(▲5.0%)の3,450億円。
- ⑦ 平均標準報酬月額▲0.5%、平均標準賞与額は▲4.2%。
- ⑧ 平均保険料率は9.21%であり、令和元年度(9.22%)と同程度。
- ⑨ 介護保険料率は0.1%増の1.7%。料率を引き上げた組合は全体の4割以上。

令和3年度以降の健保組合財政の見通し

		令和3年度	令和4年度	令和5年度以降
保険料収入		低迷	低迷継続の可能性	低迷継続の可能性
保険給付費		新型コロナの影響は不透明だが回復傾向	増加	増加
高齢者拠出金 注)	①当年度概算分	高齢者数の増加により増加	団塊の世代が後期高齢者に入り始め急増	団塊の世代が引き続き後期高齢者に入り続け急増
	②精算分	令和元年度の精算分の追加徴収 300億円	新型コロナの影響による <u>2年度の精算分の返還</u> (マイナス)	—
経常収支		赤字になる見込み (予算では5,100億円の赤字を計上)	赤字になる見込み	後期高齢者の急増と、令和2年度分の精算による一時的抑制の反動で赤字拡大の見込み

注) 高齢者拠出金は、国民健康保険と後期高齢者医療制度の当年度の支払いに充てるため、概算(見込み)で納付し、実績と見込みの差は2年後に精算。

当年度の納付額は、「増加する概算分」と「一時的に変動する精算分」の合計。

$\text{高齢者拠出金} = \text{①当年度概算分} + \text{②精算分} (= 2\text{年前の確定額} - 2\text{年前の概算額})$
--

* 令和2年度は新型コロナの影響で高齢者の医療費が一時的に落ち込んだことから、概算分に対して実績で差が生じたため、これを令和4年度の精算分で返還。